

1. 地区の概況

図1 地区の位置

*地形図は国土地理院 基盤地図情報(数値標高モデル)5mメッシュにより作成

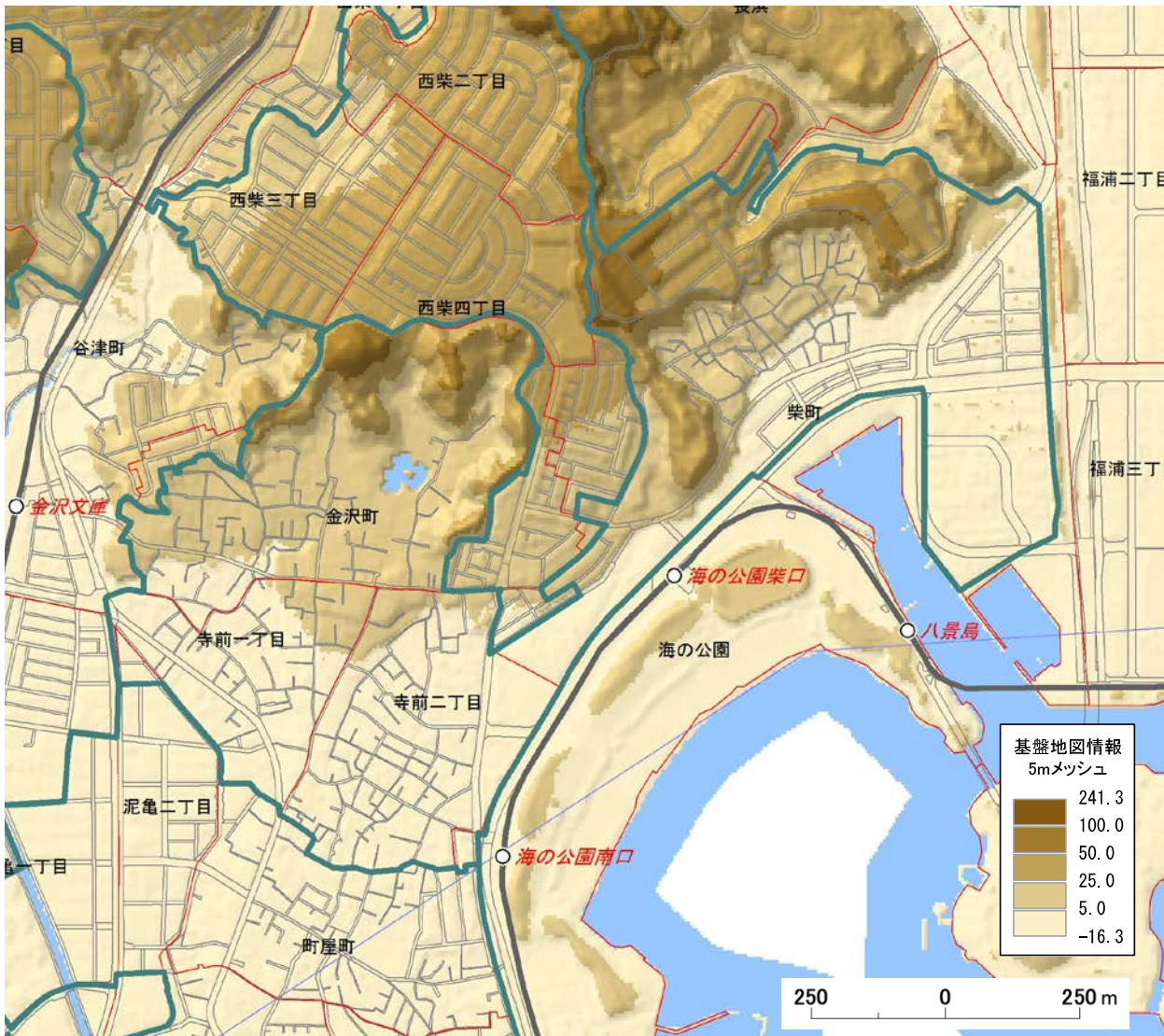


表1 人口、世帯数、年齢別人口等の動向

	平成20	平成25	平成30	平成20 ~25年	平成25 ~30年	平成25 年比率	平成30 年比率	平成30年 区平均	平成30年 市平均
人口 (人)	14,560	13,852	13,502	▲ 708	▲ 350	100.0	100.0	100.0	100.0
0~14歳人口 (人)	2,011	1,592	1,406	▲ 419	▲ 186	11.5	10.4	11.6	12.4
(内0~5歳) (人)	656	583	517	▲ 73	▲ 66	4.2	3.8	4.1	4.7
15~64歳人口 (人)	10,073	9,382	8,728	▲ 691	▲ 654	67.7	64.6	59.5	63.4
(内20~24歳) (人)	1,015	1,008	915	▲ 7	▲ 93	7.3	6.8	5.3	5.3
(内25~39歳) (人)	3,161	2,657	2,418	▲ 504	▲ 239	19.2	17.9	15.1	17.8
65歳以上人口 (人)	2,524	2,878	3,368	354	490	20.8	24.9	28.9	24.2
(内65~74歳) (人)	1,406	1,544	1,742	138	198	11.1	12.9	14.8	12.1
(内75歳以上) (人)	1,118	1,334	1,626	216	292	9.6	12.0	14.1	12.1
世帯数 (世帯)	6,384	6,337	6,504	▲ 47	167				
平均世帯規模 (人/世帯)	2.28	2.19	2.08					2.29	2.10

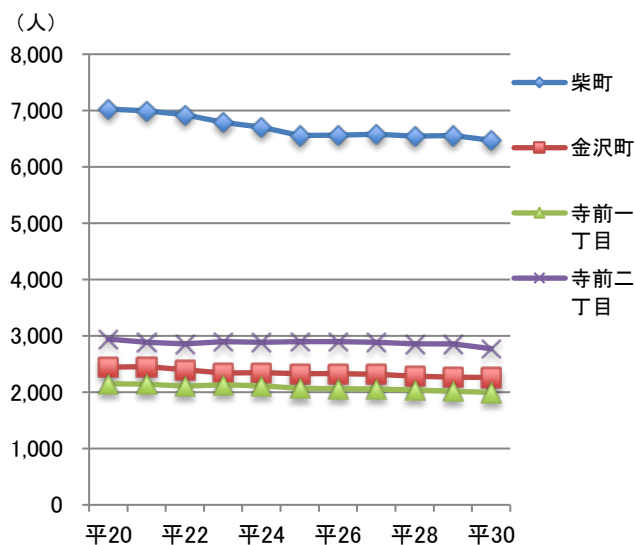
*「町別世帯と人口」、「町別年齢別男女別人口」による。各年9月末現在

*人口等の統計データは町丁目を単位に集計されたデータを活用しています。

*町丁目の境界線が複数の区域にわたる場合は、町丁目の区域を単位としていずれかの区域に含まれるものとして集計しました。

2. 町丁別人口世帯の動向 *「町丁別世帯と男女別人口」による。各年9月末現在

図2 町丁別人口の動向



金沢南部地区には、平成30年9月末現在約13,500人が暮らしています。世帯数は約6,500世帯、平均世帯規模は2.08人/世帯です。(表1参照)

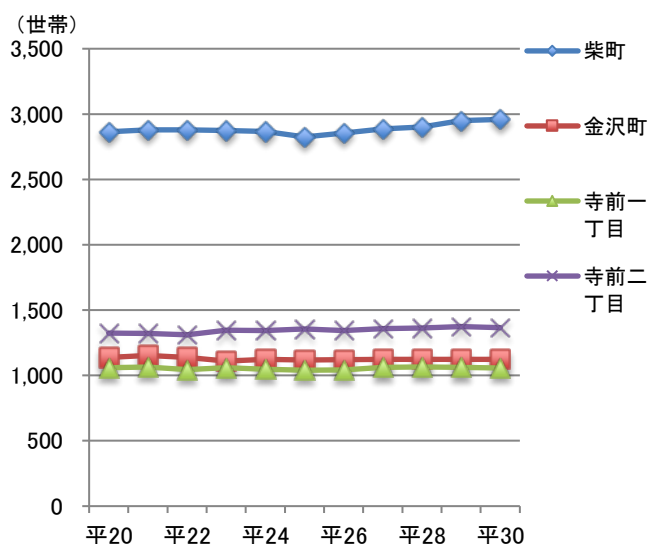
人口は、平成25～30年の期間で見ると減少が続いています。世帯数増加となっています。

世帯規模は、縮小する傾向が続いており、平成30年の平均世帯規模は市の平均水準(2.10人/世帯)、金沢区の平均(2.29人/世帯)を下回っています。(表1参照)

平成30年時点の65歳以上の人口比率(高齢化率)は、24.9%で市平均(24.2%)に近く、区の平均(28.9%)を下回っています。高齢化率は5年間で約4.1%上昇しました。

0～14歳の人口(年少人口)、15～64歳の人口(生産年齢人口)はいずれも減少が続いており、比率も低下しました。(表1参照)

図3 町丁別世帯数の動向

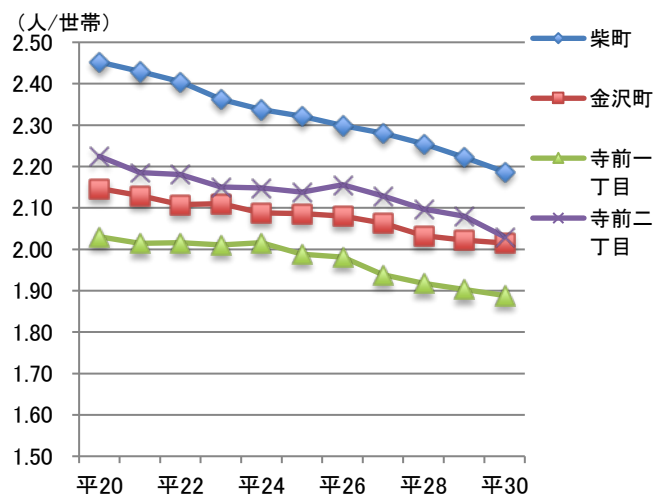


金沢南部地区には、4町丁が含まれています。

いずれの町丁も人口は安定あるいはわずかに減少となっています。世帯数は、柴町で緩やかに増加する傾向が見られる他は、いずれの町丁も概ね安定した状態が続いています。(図1,2参照)

世帯規模は、いずれも縮小傾向が続いています。(図3参照)

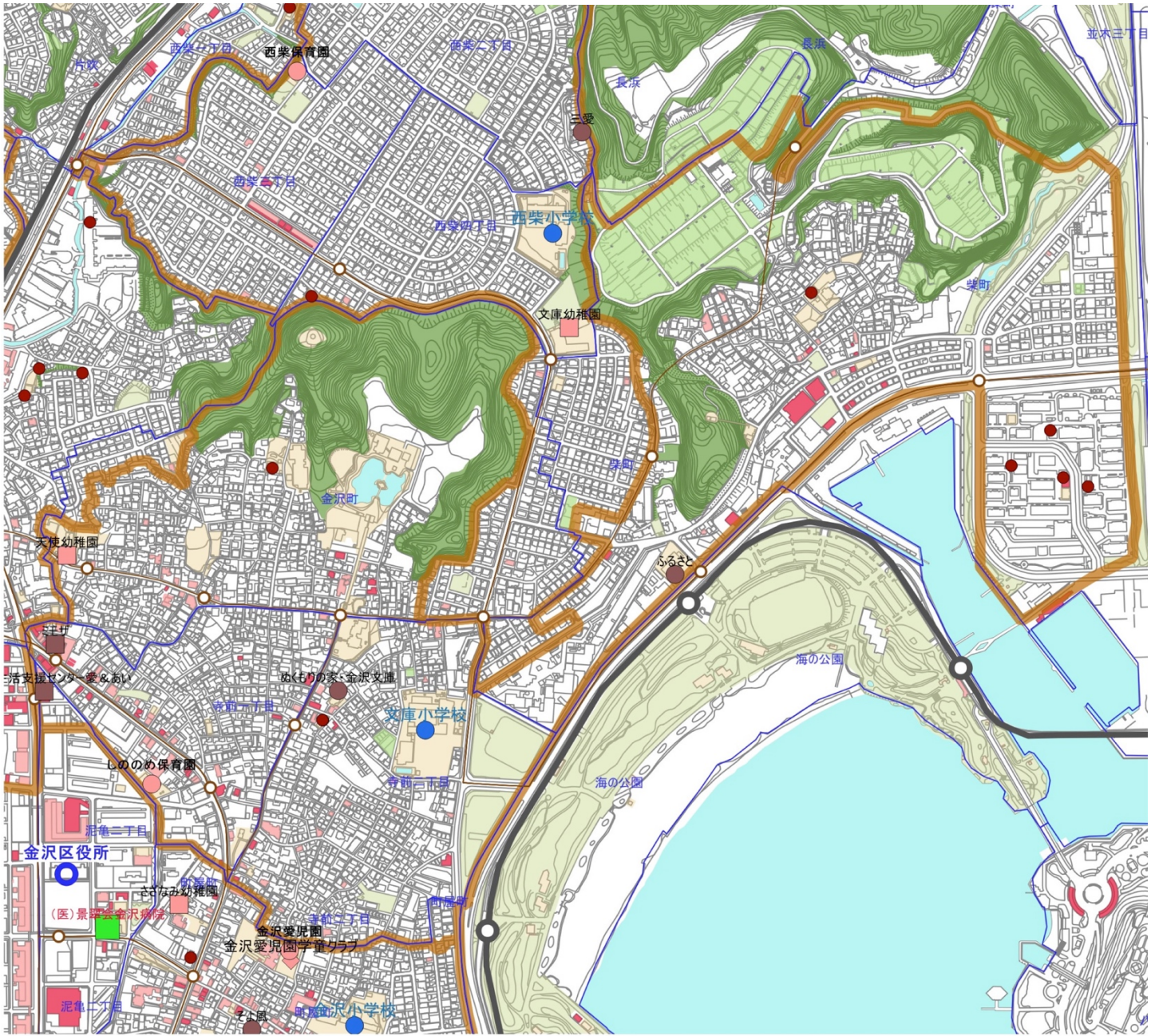
図4 町丁別平均世帯規模の動向



3. 地域の施設等の分布状況

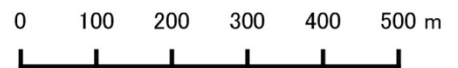
図5 地域の施設等の分布状況

*土地利用現況、建物用途現況は、横浜市都市計画基礎調査結果による。
 *施設の位置は、金沢区オープンデータ等による。



凡例

- | | |
|----------------------|------------|
| ● 区役所、社会福祉協議会等 | ● 高齢者福祉施設 |
| ● 地域ケアプラザ | ● 障がい者福祉施設 |
| ● 地区センター | ■ 病院 |
| ◆ コミュニティハウス | ● 自治会館 |
| ◆ その他の区民利用施設 | ○ バス停 |
| ● 保育所 | — バス路線 |
| ● 子育て支援拠点、親と子のつどいの広場 | □ 町丁目区境界 |
| ■ 幼稚園 | ■ 連合自治会区域 |
| ◆ 学童保育 | ■ 樹林地 |
| ● 小学校 | ■ 河川・水面 |
| ● 私立小学校 | ■ 田・畑 |
| ■ 中学校 | ■ 公園 |
| ■ 私立中学校 | ■ 文教厚生施設用地 |
| ◆ 高等学校 | ■ 店舗 |
| ■ 大学 | ■ 店舗併用住宅 |



【横浜市地形図複製承認番号 平28建都計第9020号】

4. 年齢別人口と人口移動

*年齢別人口は「町別年齢別男女別人口」による。各年9月末現在
*移動人口は平成13～28年の人口移動集計結果による

図6 年齢5歳別の人口の変化

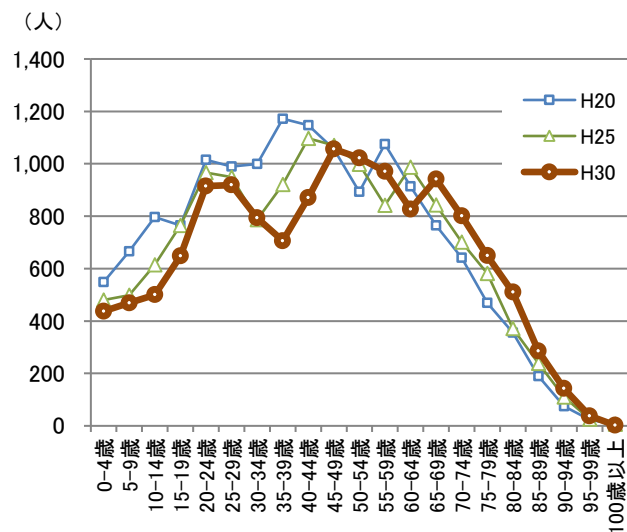


図7 年齢5歳別の人口の推移率

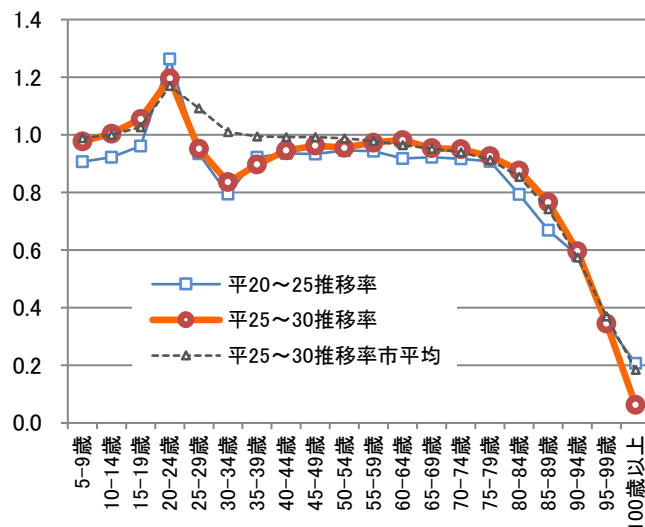
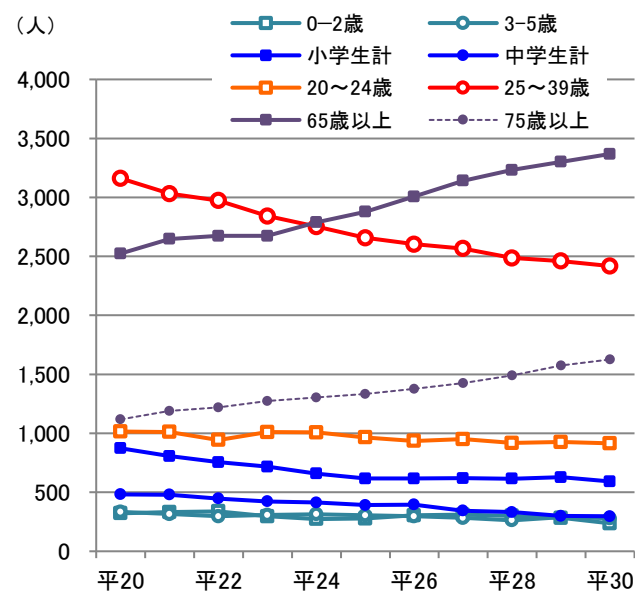


図8 年齢別人口の変化



*推移率: 上記の場合は、年齢5歳階級人口の各階級の人口が、死亡、転出入によって5年後に1階級高齢の人口になる割合

金沢南部地区は 45～59 歳の人口が多くなっています。20～24 歳の転入があるものの、25～39 歳が減少しているため 20 歳代が前後の年齢の人口に比べて多くなっています。(図6参照)

20 歳代前半が転入増加する傾向がありますが、この他の年齢層は、30～34 歳を中心にすべての年齢層に転出による減少の傾向があります。(図7参照)

人口移動は平成 14 年前後に転入が大きくなり転入超過になりましたが以降は転出が転入を上回る傾向が続いています。(図9参照)

図9 人口移動の動向

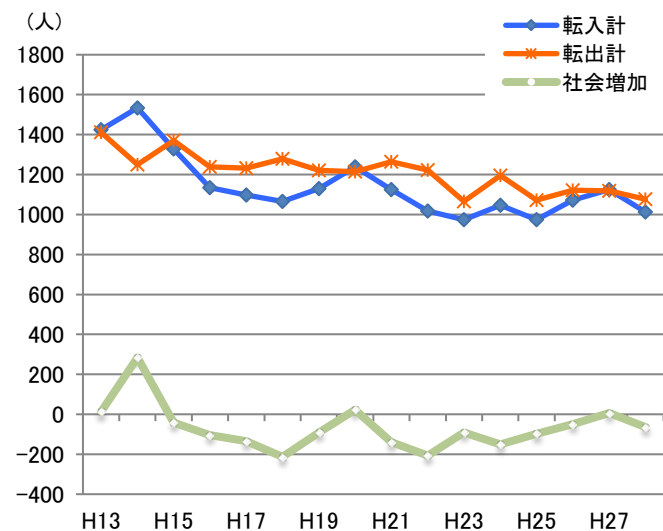
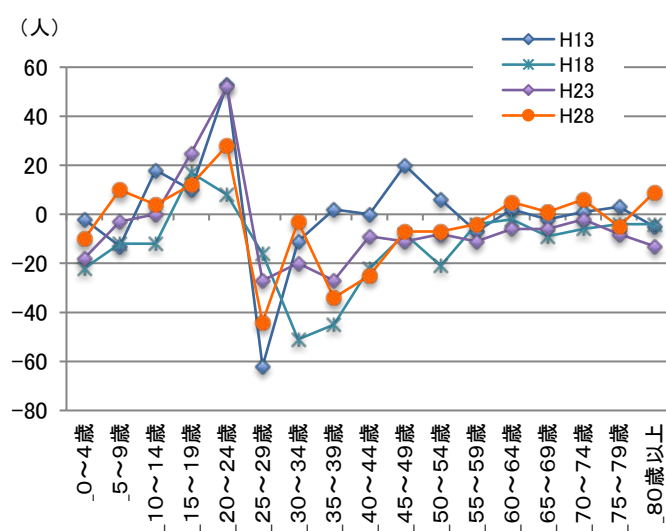


図10 年齢5歳別社会移動人口の動向



5. 世帯の状況と居住歴

*各年「国勢調査」結果による

図 11 6歳未満の子どもがいる世帯の動向

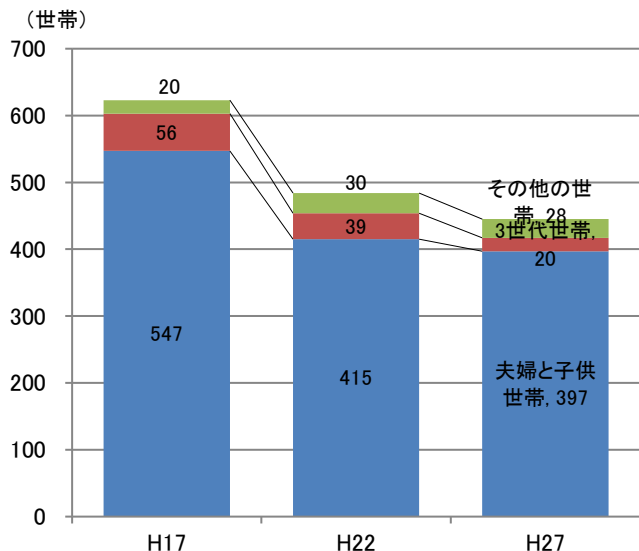


図 12 65歳以上の高齢者がいる世帯の動向

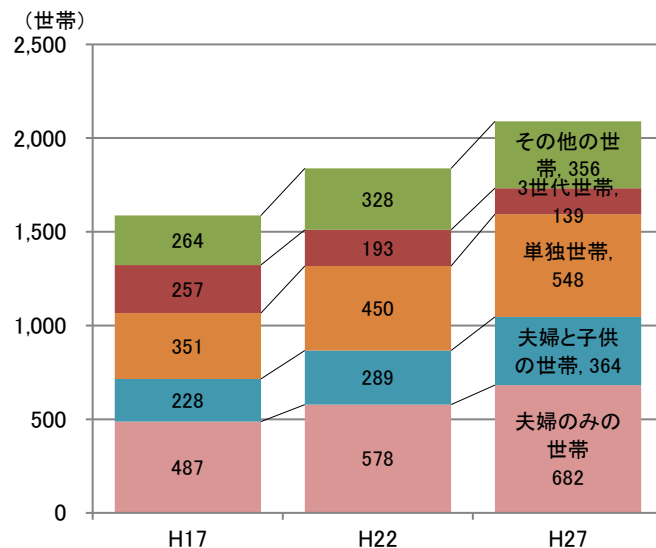


図 13 住宅の所有関係別の世帯の動向

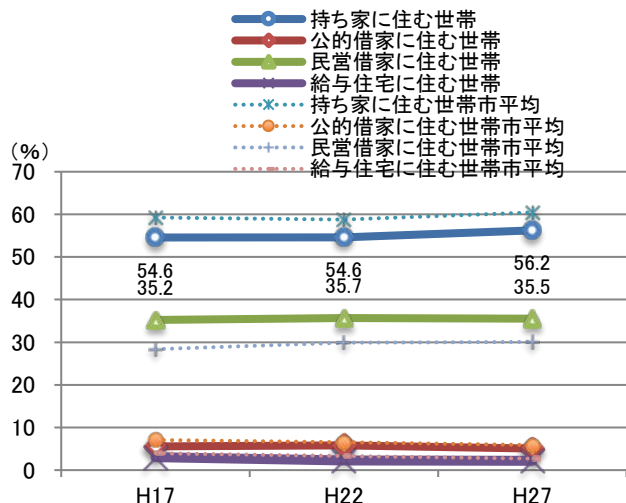


図 14 住宅の建て方別の世帯の割合

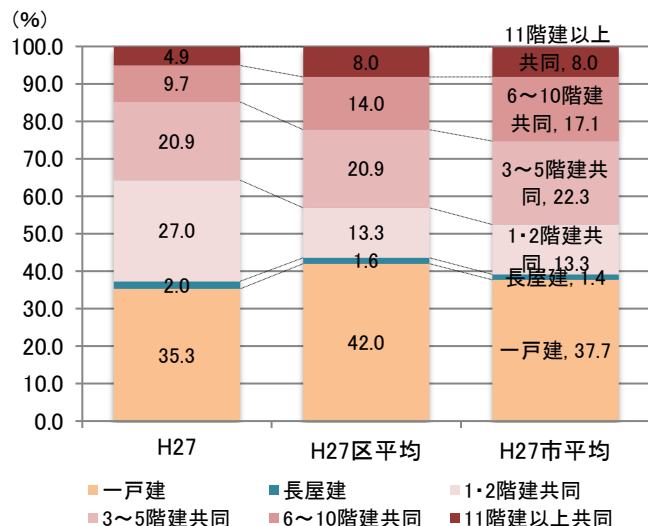


図 15 規模別世帯の動向

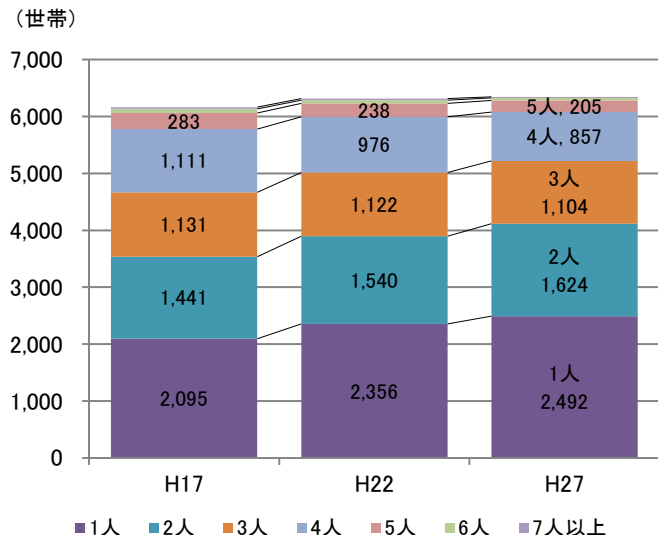
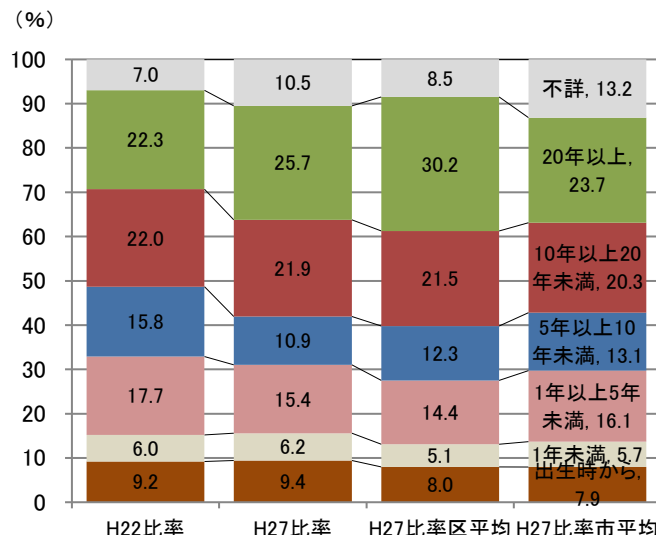


図 16 居住歴別人口の割合



6. 65歳以上の高齢者のいる世帯、要介護認定者数

表2 高齢者のいる世帯の状況 (H31)

	高齢独居世帯数(男性高齢者)	高齢独居世帯数(女性高齢者)	高齢者のみ世帯数(単身世帯除く)	高齢者を含む世帯数(高齢者と高齢者以外で構成)
世帯数(世帯)	265	546	628	1,298
対世帯総数比率(%)	4.0 (区平均 4.8)	8.3 (区平均 11.7)	9.6 (区平均 14.3)	19.8 (区平均 26.9)
対高齢者のいる世帯数比率(%)	20.4 (区平均 17.9)	42.1 (区平均 43.4)	48.4 (区平均 53.2)	100.0

*横浜市資料による。2019年3月時点。世帯数は住民基本台帳による

*高齢独居世帯は65歳以上の方1名で構成される世帯

*高齢者のみ世帯は、65歳以上の方のみで構成される2名以上の世帯

*高齢者を含む世帯は、65歳以上の方と、65歳未満の方で構成される2名以上の世帯

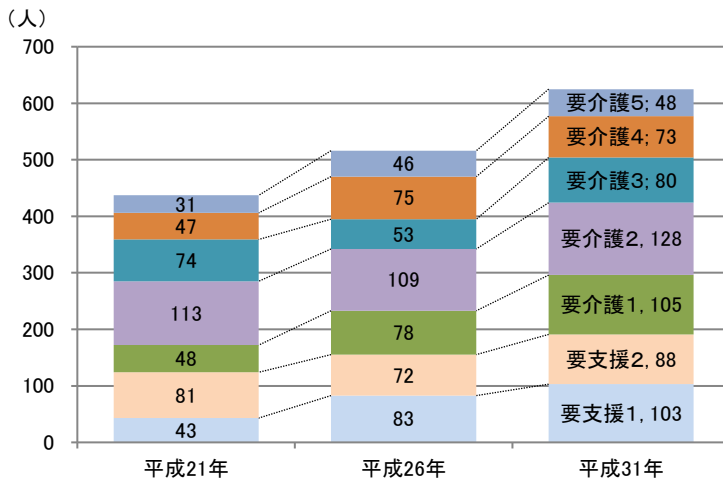
表3 要介護認定者数 (H31)

	計	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
要介護認定者数(人)	625	103	88	105	128	80	73	48
人口比(%)	4.64	0.77	0.65	0.78	0.95	0.59	0.54	0.36
人口比区平均(%)	4.70	0.73	0.64	0.74	1.00	0.61	0.58	0.40
要介護認定者総数比(%)	100.00	16.48	14.08	16.80	20.48	12.80	11.68	7.68
区平均(%)	100.00	15.46	13.69	15.82	21.31	12.93	12.34	8.45

*要介護認定者数は、金沢区資料による。平成31年3月末時点

*地区別人口は、「町丁別の人口(住民基本台帳による)」により集計。平成31年3月末時点

図17 要介護認定者数の動向



*各年、要介護度別認定者数は金沢区資料による。

7. 地区の特徴と動向

金沢南部地区は海の公園に面しており、地区内には称名寺があります。地区の南側をシーサイドラインが通っており、海の公園南口駅、海の公園柴口駅があります。

戸建て住宅に住む世帯は35%です。共同住宅に住む世帯が多く、中でも1・2階建ての共同住宅に住む世帯が約27%で、区の平均(約13.3%)に比べて2倍程多いことが特徴です。(図14参照)

また、持家に住んでいる世帯が約56%を占めています。民間の借家に住む世帯は約30%です。区の平均に比べて持家の比率が低く、民間の借家に住む世帯の比率が区平均に比べて多くなっています。(図13参照)

居住期間が短い人がやや多くなっています。平成27年時点で、居住期間が「20年以上」は約26%で区の平均(約30%)を下回っています。一方5年未満の人は区の平均を上回っています。(図16参照)

6歳未満の子どもがいる世帯は、減少が続いています。

6歳未満の子どもがいる世帯は平成27年で約450世帯で、世帯総数(約6,350世帯)の約7%を占めています(区平均は約8%)。このうち約89%が核家族です。(図11参照)

65歳以上の高齢者がいる世帯は、平成12年以降増加が続いています。特に高齢者の単独世帯、高齢者の夫婦のみの世帯の増加が目立ちます。

平成27年で高齢者のいる世帯数は約2,090世帯で、世帯総数の約33%で、ほぼ区平均です(区平均は約32%)。このうち、高齢者の夫婦のみの世帯は約33%、高齢者の単独世帯は約26%です。(図12参照)

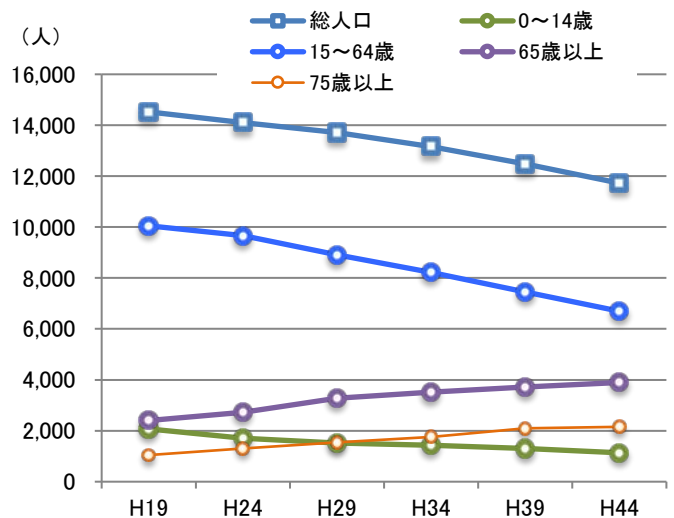
平成29年時点の高齢者のいる世帯の比率は約36%で、区の平均(約43%)を下回っています。(表2参照)

また、要介護認定者の人口比率は約4.2%で、区の平均(約4.7%)を下回っています。(表3参照)

現在は、20歳代前半に転入増加傾向がみられるものの、20歳代後半～30歳代前半を中心に多くの年齢層に転出により減少する傾向があるため、結果的に人口減少が続いています。(図6,7参照)

現在の年齢5歳別の人口の変化の傾向が続くと、今後も緩やかな人口減少が続きます。

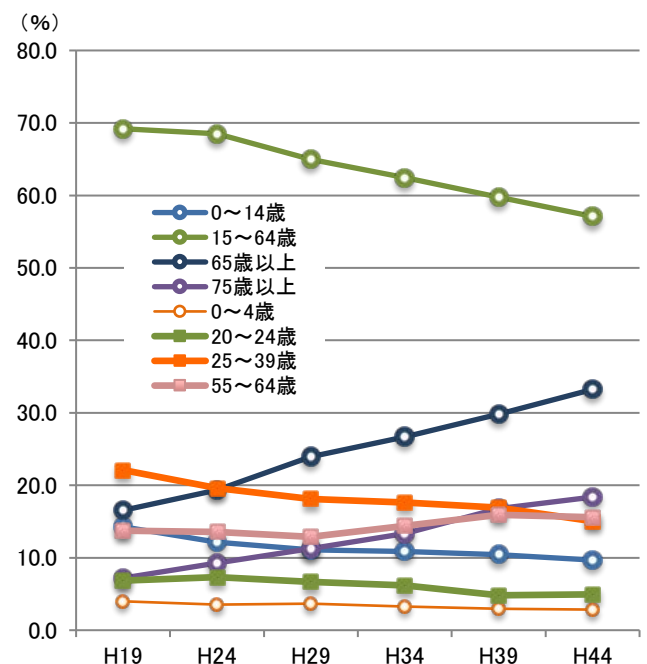
図18 人口の動向と推計



*平成24～29年の年齢5歳別人口の変化の傾向が続くものとして推計した値です。

*平成34年以降が推計値です。

図19 人口の動向と推計 年齢別比率



現在の65～69歳の人口に比べ今後高齢期を迎える40～54歳の人口が多いため、65歳以上の人口の増加は続きます。(図6参照)

また、現在75～79歳の人口に比べて今後75歳以上になる人口が多いため、75歳以上の高齢者も増加が続くと考えられます。

(図6、7、18、19参照)